

一九 文化九年三月 邑楽郡板倉村雷電神社の太々神樂賄い方

につき議定〔B〕

雷電宮永代大々議定之事

一雷電宮永代大々之儀者、願主共年來之依ニ心願ニ、「信心之輩」  
を勧メ、天明九酉年より永代大々奉納仕候處、「年經、講中大勢  
ニ罷成、世話人共方ニ而講中賄方」行届兼候様ニ相成、取扱  
を以、御別当所江講中賄方」式相頼、當申壱ヶ年龍藏寺ニ而  
御引請、左之通

一永代大々御札千五百枚

外ニ小札六百枚

是ハ、年々大々之節、世話人方江御寺より可ニ相渡二分

一講中江神酒并茶漬出し候事

是ハ、御寺ニ而相賄候筈

一当日講金取集、会所江詰合罷在候世話人、并右会所下働く者  
四五人程、神酒・昼飯共御寺ニ而賄候筈之事

一当日取締として村役人罷出、見廻り方致候ニ付、「右賄方同断  
一料理方并座鋪肝煎・給仕之もの、其外働く者・」雇人之儀者、

御寺ニ而被レ成候事

右之通、御寺ニ而御引請賄被レ成候ニ付、右為ニ奉納「金八両者

世話人方より御寺江納候筈、此度取極候、「尤当壱ヶ年右之通り  
ニ而相勤、御寺賄方金子」不足ニ候歟、又者世話人の方ニ而寄

金無レ之、前書之通」ニ而ハ難ニ相続一樣候ハゝ、明年より者神酒  
一ト通りニいたし候共、其様子ニ寄、相談之上可ニ取計一、右

相定之」通りニ而、双方共ニ金子間ニ合候ハゝ、明年よりハ三ヶ  
年」之間取極メ、右三ヶ年内新規ニ講入致候者之分、「三拾人

ニ付金壱分之積リを以、切替之節増金いたし、」御寺江相納可レ  
申候事

一世講中大勢之事ニ候得者、会所より講中何人と申」切手相渡し、座

敷江相廻し候間、御寺ニ而も座敷口ニ兩人出し置、切手請取、  
座敷江通し可レ申事

一世話人方ニ而も、講中之外切手出シ申間敷候事

一於ニ当社別当龍藏寺之外、社人・神主等無ニ御座ニ」候事

右之通、此度隣寺并郷左衛門立合、双方とも「得心之上、当壱ヶ  
年取極候、然ル上者右振合を以、「双方共差支無レ之歟、差支候方  
有レ之歟、何レニ而も双方」相談之上、前条通り可ニ取計一、一躰世

儀」永代相続候得者願成就之事ニ而候、且又御寺ニ而も「雷電宮  
御繁昌之御事ニ御座候得者、是以同事ニ」候間、已來双方申合、

永代無ニ懈怠ニ執行取続候様」為レ可レ致、隣寺并郷左衛門立会、書  
付双方印形為ニ取替」置候事、為ニ後日ニ仍而如レ件

龍藏寺無住ニ付  
當時本寺持  
本寺五宝寺出府ニ付代  
館林町

文化九申年三月

大々願主世話人  
彦左衛門印  
大々願主世話人  
八郎右衛門印

(後略)